

ことと置く軽くて小さき古茶の缶
何となく新茶の終ひの一雫
夏は新茶冬は蜜柑や富士を見て
汗ばむと云ふにあらねど新茶かな
古茶といふ音の響きも古茶らしく
古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし
山葵漬なめて新茶をいれかへて
自ら色に出でたる古茶新茶
若きらに道を譲りて古茶啜る
出涸らしのやうな箴言古茶新茶
色も香も新茶なりけり飲むべかり
心して古茶の別れを惜しむべく

新茶の葉葉の面影はなけれども
新茶汲む言葉に負荷を掛けぬやう
新茶蒸らす既に急須を溢るる香
真つ暗な急須に残る新茶の香
真つ暗な急須の中の新茶の香
禅僧と古茶を啜りて風の音
送るてふ新茶待たるる釘煮かな
注文の新茶を待てる釘煮かな
長幼の序を大切に古茶新茶
滴々の新茶のしづく静かな夜
湯加減を塩梅申す新茶殿
日曜の朝に届きし新茶かな

俳人や古茶の別れを惜しむべく
老兵の昔語りや古茶新茶
櫻して新茶娘が駅前

若葉して哀れ摘まるる新茶かな

千金の終の一滴新茶汲む

自ら色に出にけり古茶新茶

山葵漬なめて新茶をいれかへて

豆飯を食ふや新茶もぐくぐくと

色も香も新茶なりけり飲むべかり

ことと置く軽くて小さき古茶の缶

新茶の葉葉の面影はなけれども

古茶といふ音の響きも古茶らしく

新茶蒸らす既に急須を溢るる香

古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし

真つ暗な急須に残る新茶の香

若きらに道を譲りて古茶啜る

送るてふ新茶待たるる釘煮かな

禅僧と古茶を啜りて風の音

湯加減を塩梅申す新茶殿

先達といふべき古茶を蔑ろ

釋して新茶娘が駅前

心して古茶の別れを惜しむべし

日曜の朝に届きし新茶かな

ぼつと出の新茶が古茶を蔑ろ

夏は新茶冬は蜜柑や富士を見て

古茶新茶去年今年にも似たるかな

うつすらと汗かくころの新茶かな

長幼の序を退けて新茶古茶